

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立長良東小学校

校長名 中村有希

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を 自ら拓く力を育むため の教育課程の編成	・「自ら求め みがきあって高まる 学習の創造」に重点を置いて教育活動を計画する。 ・自分や他者の命を尊重する教育を、特別活動や道徳の授業、いじめを見逃さない日等の授業で推進する。振り返りを交流し、対話を重ねる中で、「生命の尊厳」への自覚と理解を深める。	A	・子どもの考えを拾ったり、立場を明らかにさせて考えを進めたりする授業を仕組むことで、自らの学習状況を改善し、主体的に学習に取り組む児童が増えてきた。 ・「命を大切にすること」について考えたことを家庭で保護者に伝え、話し合う活動を仕組むことで、学校と家庭の双方向から考えを深めることができた。	・以前は教師が話をする、一斉に「パッ」と視線が教師に集まるような感じだった。今は自由に色々なところから意見がさっと出てくる。活動でも、図書館に行って調べ物をする子もいれば、タブレット端末を用いて投影を行う子もいて、様々な様相が表れていてよい。 ・書くことで定着につながる。タブレット端末の効果的な使い方について考えていくとよい。	・コーディネーターとしての教師の立ち回りの在り方や、児童の思考を促す発問の在り方等を検討していく。児童の学習状況を如何に把握するか、個に応じてどう支援するかを明らかにしていく。 ・タブレット端末のよりよい使い方を発信していく。具体的には授業での活用方法、家庭学習での有効な使い方などが考えられる。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・地域の学校として、地域や保護者と連携した教育の充実を図る。(防災教育、読み聞かせ、クラブ活動) ・中学校区の学校と「生徒会サミット」を実施し、共通認識のもとでいじめ防止に取り組む。地域の学校(長良特別支援学校、長良高校等)とも交流を深める。	A	・今年度、新規に学校ボランティアを立ち上げた。清掃や読み聞かせボランティア、各種行事等に積極的に参加していただいた。(登録人数は88人) ・「生徒会サミット」で、いじめ防止の取組について異年齢で交流することで、「生命の尊厳」への自覚と理解を深める姿につながった。	・「読み聞かせボランティア」に参加している地域の意見として、子どもが集中していて長良東小学校では活動しやすいとの声があがっている。読み聞かせの感想を聞いたが、子どもたちが的確な感想を話していて驚いた。 ・ボランティアに参加させてもらったが、子どもたちと触れ合えるきっかけになってよかった。	・人的リソースを有効に活用していく。学校だけではなく、保護者、地域の力を借りながら、子どもの学習環境を整備していく。教室等の施設面に留まらず、子どもの心を豊かにする教育活動も充実させていく。 ・いじめ未然防止研修の内容、そこで挙がった問題点等を中学校区の学校で共有することで、同じ思いでいじめ防止に取り組むようにする。
あたたかさや働きがい にあふれる学校づくり	・ICT(ロイロノート、Teams、スマート連絡帳など)を効果的に活用し、児童と向き合う時間を確保する。 ・職員で情報を共有し、組織で対応する風通しのよい職員集団になるよう、日頃から互いに声をかけ合うことを大切にしている。	A	・学習の予定をTeamsに配信したり、宿題をデジタルを活用して配信したりすることにより、教師の事務作業が軽減され、一人一人の子どもに向き合う時間が増えてきた。 ・校長室の扉がいつでも開いていることに表れているように、何でも相談できる環境が整ってきた。職員が休みの時も「お互い様」の心で助け合い、気持ちよく働くことができた。	・教師も子どもたちに笑顔で向き合っている。普通、授業をしなくてはならないということが頭にあり、難しい表情を浮かべがちであるが、長良東小学校の教師はそうではなく、子ども目線で発信している。 ・教科専門の先生に教えてもらえることで、子どもたちがのめりこんで授業に参加していることは長所だと感じる。	・ICTを活用したり日課や授業時数を見直したりすることで、勤務時間内に事務作業が進むようにし、心身ともに健康な状態で子どもと向き合うことができるようにする。 ・教職員も温かい関係の中でやりがいをもって働くことができるよう、ミドルリーダーを育て、若手の職員に寄り添いながら共に育つ「共育」を進めていく。
災害、事故、感染症、 生徒指導事案等に対する 安全性の確保	・学校行事として全校児童が自治会の防災訓練に参加し、地域の防災体制について学ぶとともに、地域の一人としてできることについて体験を通して考える。 ・不登校傾向の児童について、保護者や関係機関と連携し、個に応じた学び方や学びの場を考えていく。	A	・日曜日に地域で行われる防災訓練に全校で参加したり、長良川水域で行われる訓練に親子で参加したりした。地域の一人として、災害時に自分たちにできることについて考える機会にするとともに、体験を通して動き方を学ぶことができた。 ・学校で抱えるのではなく、関係機関と連携しながら子どもの居場所をつくることができた。	・地域と学校とで防災訓練を行うことに大きな意味がある。 ・防災訓練を単独の行事として行うのではなく、日々の学習とつなげたり、家庭と連携したりすることが大切である。 ・かがやき学級の子どもたちは落ち着いて学んでいた。通常学級とも色々な形で交流できていた。今後も続けていけるとよい。	・総合的な学習の時間を中心に、子どもの防災に関する意識を高めていく。また、PTAとも協力しながら家庭との連携を模索していく。 ・引き続き、保護者や関係機関と連携しながら、不登校(及び不登校傾向)の児童が安心して過ごすことができる居場所づくりに努める。
教育環境と学校財務 環境の整備及び効果 的な活用	・保護者や地域と協同して、校舎、教室の環境整備を行い、生活しやすい環境を整える。 ・毎月の安全点検だけでなく、日頃から安全に対する意識を高め、校舎の老朽化に伴う危険箇所を早期に把握し、安全な環境を整える。	B	・学校ボランティアの協力を得ながら、空き教室や体育館2階の整理整頓、子どもが活動する場所の整備を行うことができた。 ・毎月の安全点検をもとに校内の環境整備に努め、安全な環境を整えることができた。校内で対応できそうことは校務員に依頼したり職員で対応したりして、早期に改善することができた。	・本の貸し出し冊数が多い。本に触れる指導をしてもらっている。PTAが本の寄贈を行ってくれているが、新しい本にも興味をもっていてよい。 ・旗当番で交差点に立っていると、元気にあいさつしてくる子どもたちが多くいるのは、普段からの習慣が身につけているからだと思う。	・学校ボランティアの協力を得ながら、環境を整備していく。必要のないものは計画的に廃棄しながら、心理的に安心できるスペースを増やしていく。 ・開校50年が過ぎ、施設が老朽化している。財政的な面で市への協力を依頼するとともに、職員、校務員等で整備できるところは自力で整備していく。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/nagarahigashi-e/>